



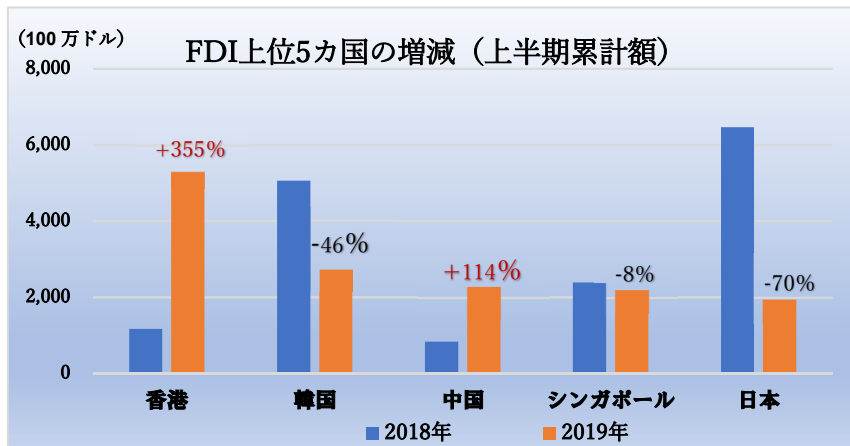
<CAM ベトナム・リサーチ・レポート>

2019年7月8日

ベトナム対米輸出に対する関税について

韓国・台湾企業の迂回輸出の抑制が目的？

米商務省は7月2日、韓国、台湾で生産され、ベトナムで加工を施し、米国に輸出される鉄鋼製品に最大 456.23%の関税を課すと発表した。対象となるのは、耐食鋼と冷延鋼板の一部製品。韓国と台湾で製造された鋼材への関税は2015年12月と2016年2月に発動されている。同省によれば、これらの耐食鋼と冷延鋼板は、韓国や台湾で生産された鋼材をもとにしており、反ダンピング・補助金相殺関税を回避しているという。同省は既に中国製原料を使ったベトナムの一部鋼材に反ダンピング関税を適用すると発表している(2018年5月)。ベトナムの鉄鋼業界については内需が中心で、米国への輸出もあるが、今回の対象は韓国・台湾の熱延鋼板(HRC)から作られる耐食鋼と冷延鋼板だけなので、影響は及ばない。これらの鉄鋼商品を輸出しているのは主に外資系企業であり、商工省の副大臣は「国内企業については、去年から対応済みである」と発表している。



出所：FIAのデータを基にキャピタル アセットマネジメントで作成

米国と中国の貿易摩擦の激化により、在中国企業によるサプライチェーン見直しでASEAN諸国に生産拠点を移転する動きが本格化している。ベトナムは脱中国製造業の受け皿としては最有力候補であり

中国・香港からの対ベトナムへの投資が拡大している。

米中の貿易摩擦で中国の対米輸出が低迷するのは対照的に、ベトナムの対米輸出は今年に入り急増している(上半期は前期比+約27%：ベトナム税関総局、統計総局)。米国では、中国製品が米国の関税強化を避けるためベトナムを経由しているのではないかとの懸念が燃えている。ベトナム政府は6月9日に「ベトナム製と偽って米国に輸出される外国品」に対する取り締まり強化を発表しており、事態の鎮静化に努めている。しかし米国はベトナムの対米輸出黒字の拡大にも目を光らせ始めており、10月の為替操作国の認定への議論が高まることも想定され、この点注視し続ける必要がある。

以上